2000万人のマウスピース 01

マウスピース矯正の話（1）

文 原田 燎
text by Ryo Harada
株式会社スマイルアンドトゥースCEO

今日本で〝歯並び〟への意識が向上するなか、最新の歯列矯正メソッドとして『マウスピース矯正』が広まっています。従来の金属製ワイヤー等を用いて行う歯列矯正と比較して、その利便性、価格面において柔軟性があり、誰でも始めやすい歯列矯正法としてその需要が高まっています。

マウスピース矯正とは、透明なマウスピース型装置を歯に装着し、マウスピースを数週間ペースで交換するたびにその形状をわずかに変えていくことで歯並びを改善する治療法です。マウスピースと聞くと、これまでも歯ぎしり防止やボクシングなどの競技において歯を保護する用具としてご存知の方も多いでしょう。一般的に、歯並びが改善していく段階で強い痛みを伴う従来のワイヤー矯正は、数年間の治療期間を終えても、治療によって改善した歯並びの後戻り防止として、マウスピース（リテーナーとよぶ）をさらに一定期間装着する必要があります。この後戻り防止に用いるマウスピースに着目し、ワイヤー矯正よりも目立たず、歯への負担をかけずに歯並びを治すことを初めて可能にしたのが1997年に米国で誕生したインビザライン®（アライン・テクノロジー社）で、日本では2006年よりインビザライン®の販売が開始されました。

そもそも、なぜ「歯並びが良い」ことは大切なのでしょうか。歯並びは、その見た目の良さが与える審美的・社会的メリットだけではなく、身体全体の健康にも大きなつながりを持っています。歯並びやかみ合わせの悪さ（総称して不正咬合と呼ぶ）を放置したままの場合、食べたものが歯に詰まりやすくなり、自力での歯磨きでは十分な清掃が行いづらいため、歯石や虫歯の増加、歯周病等口腔衛生環境が悪化するリスクが高まります。歯周病のリスクが高まれば、歯周病菌を介して糖尿病や肺炎、脳梗塞などの重大疾患に罹患する確率も上がっていくのです。そのほか発語障がいや顎関節症、さらには視力低下まで招く可能性があり、不正咬合を治療して良い歯並び（正常咬合）を目指すことの重要性は、日本においてより啓蒙されるべき認識であり、国外と比較して歯列矯正の国内ポテンシャルはかなり高いといえます。

Profile

1996年東京都豊島区生まれ。4年間の米国留学の際、日本人の歯に対する健康意識、美意識の低さを痛感した経験から、歯科分野での起業を志す。そこで国内歯科事業の中でもマウスピース矯正市場の伸びしろに着目し、2019年株式会社スマイルアンドトゥースを設立。CEOとして、マウスピース矯正を通じ日本人の歯に対する意識改革をめざす。